

経済・金融 フラッシュ

コロナ禍を上手く乗り切っているのはどの国か？

—50 개국ランキング(2021 年 2 月更新版)

経済研究部 准主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:昨年 7 月・10 月に続き台湾が 1 位

2020 年 7 月に新型コロナウイルスの感染拡大に対する影響について各国の状況を概観するために、「コロナ被害」および「経済被害」を数値化した上でランク付けし、10 月には更新版を作成してきた¹。

本稿は 2021 年 2 月上旬までの状況を踏まえたランキングの更新版である。2 月 11 日時点までのデータをもとに再評価をしたところ、結果は以下の通りとなった。

【評価結果】

- ・総合順位では、台湾、ニュージーランド、シンガポールの順に高評価となった。
- ・評価が低い国は、20 年 10 月のランキングに続き欧州及び南米に多い。これらの国では感染者数が多く、また成長率も大きく落ち込んでいる傾向にある。

2. 結果の詳細:コロナ禍は「ショック」から「長期戦」へ

今回、実施した評価は図表 1 の通りであり、感染者数・死亡者数を 21 年 2 月上旬のデータに更新したほか、「経済被害」の算出のために用いた 2020 年（度）の GDP 見通しを、昨年 12 月に公表された世界銀行の見通しや今年 1 月に公表された OECD・IMF の成長率見込み、および各国政府の実績（見込み）値を用いて更新している（図表 2）。

今回のランキングは台湾やニュージーランドなど「コロナ被害」をかなり小さく抑えている国が上位となった。特に台湾は経済被害も小さく、2020 年の GDP 成長率はコロナ禍前の見通しを上回っている状況にある。

一方、ベトナムやタイについては、累積感染者数²は少ないが、冬に感染が拡大したことで「コロナ被害」のうち感染拡大率の順位を落としている。ただ、1 日あたり感染者数は多くてタイで 800 人、ベトナムで 50 人程度（7 日移動平均）であり、他国と比較すれば相対的に少ないため、きちんと感染拡大を抑制できれば実際の「コロナ被害」は軽微となる可能性もある。

¹ 高山武士 (2020) 「新型コロナウイルスと各国経済—コロナ禍を上手く乗り切っているのはどの国か? 49 개국ランキング」『ニッセイ基礎研レター』2020-07-03 および、高山武士 (2020) 「新コロナ禍を上手く乗り切っているのはどの国か? —50 개국ランキング (2020 年 10 月更新版)」『経済・金融フラッシュ』2020-10-14 を参照。本稿の分析対象国は、前回の対象国 (MSCI ACWI の指数を構成する 49 개국・地域) に加えて、問い合わせの多かったベトナムを加えて 50 개국・地域としている。また、中国と記載した場合は中国本土を指し香港は除くことし、香港等の地域も含めて「国」と記載する。

評価は、「コロナ被害」(感染拡大)と「経済被害」をいずれも小さく抑えている国という観点から実施し、具体的には「コロナ被害」は「①累積感染者数」「②感染拡大率」「③致死率」のデータ、「経済被害」はコロナ禍によって失われた GDP の損失を推計して評価している。より詳細な手法については、上記レポートを参照。

² 感染者数や死亡者は各国の報告数値を用いているが、国によって報告基準が異なる点に注意が必要。

「経済被害」では、最新の見通しや実績値を反映しているが、昨年 10 月時点の見通しから相対順位に大きく変動した国は少なかった。その中ではトルコやカタールといった国では成長率が昨年
の見通しよりかなり上振れすると見られており、順位を上げている。ただし、全体的にみると、感
染拡大率の変化がランキングを上下させる主因となった。

日本も冬の感染急
拡大を受けて緊急事
態宣言が再発令され
ているなど、感染拡大
率の評価が低下した
ため、順位を落として
いる。ただし、感染者
数や死亡者は他国と
比較して、低水準に抑
えている。

一方、南米や欧州は
昨年 10 月の評価と同
様に「コロナ被害」お
よび「経済被害」のど
ちらも悪い国が目立
つ。欧州では、第 1 波
の際、致死率が高くな
ってしまったことが
前回 10 月の評価に影
響していたが、今回の
評価では、冬の第二波
急拡大で厳しいロッ
クダウンに踏み切ら
ざるを得なかった国
が多く、「コロナ被害」
「経済」とともに順位を
上げる事ができな
かったと言える。

現在、冬の感染急
拡大への対応に追われ
ている国が多いが、一
方でワクチン接種も始
まっており、ワクチン
普及による経済活動
平常化への期待も高
まっている。

このランキングでは、経済被害についてはコロナショックの深さを図ることを目的に 2020 年の

(図表 1)

各国のコロナ対応の評価

	総合評価			コロナ被害						経済被害	
	点数	順位	順位の変化	感染者数		感染拡大率		致死率		GDP損失	
				対1万人	点数	%	点数	%	点数	%	点数
台湾	160.0	1	(±0)	0.4	10	4.7	7	1.0	9	1.0	10
ニュージーランド	142.5	2	(↓1)	4.6	10	1.1	10	1.1	9	▲7.3	5
シンガポール	130.0	3	(↑7)	103.5	7	0.6	10	0.0	10	▲6.7	6
トルコ	127.5	4	(↑11)	303.8	5	4.4	8	1.1	9	▲2.8	10
パキスタン	126.0	5	(↓1)	26.8	9	3.7	9	2.2	5	▲4.2	9
ノルウェー	120.0	6	(↓2)	121.6	7	5.8	6	0.9	9	▲3.5	9
カタール	114.0	7	(↑12)	554.8	3	3.7	9	0.2	10	▲4.6	9
サウジアラビア	110.5	8	(↓6)	106.8	7	1.2	10	1.7	7	▲6.4	6
中国	110.0	9	(↓2)	0.6	10	0.5	10	5.3	1	▲3.4	10
香港	105.0	10	(↓2)	14.2	9	4.2	8	1.8	7	▲7.5	5
オーストラリア	102.0	11	(↓1)	11.2	9	0.3	10	3.1	2	▲5.5	8
デンマーク	102.0	11	(↓5)	349.1	5	3.2	9	1.1	8	▲5.7	7
韓国	95.0	13	(↓11)	15.9	9	7.2	4	1.8	6	▲3.1	10
日本	88.0	14	(↓10)	32.6	8	9.0	3	1.6	8	▲5.7	8
ベトナム	80.0	15	(↓9)	0.2	10	34.6	1	1.7	7	▲3.4	10
インド	76.5	16	(↑13)	78.7	8	1.6	9	1.4	8	▲13.2	1
フィンランド	75.0	17	(↓1)	88.3	7	11.9	2	1.4	8	▲5.4	8
エジプト	72.0	18	(↓7)	16.9	9	4.7	7	5.7	1	▲3.7	9
タイ	71.5	19	(↓10)	3.5	10	55.9	1	0.3	10	▲9.3	3
ロシア	70.0	20	(↓3)	270.3	6	6.3	5	1.9	5	▲4.9	8
オランダ	63.0	21	(↑21)	586.1	2	5.3	6	1.4	8	▲5.9	7
スイス	63.0	21	(↑14)	622.3	2	3.9	8	1.8	6	▲5.9	7
マレーシア	60.5	23	(↓1)	76.2	8	29.6	1	0.4	10	▲9.6	3
ポーランド	60.5	23	(↓1)	411.9	4	5.0	7	2.5	4	▲6.3	7
南アフリカ	60.5	23	(↓8)	248.4	6	3.6	9	3.2	2	▲8.5	5
ドイツ	58.5	26	(↓6)	278.0	6	6.0	6	2.8	3	▲6.0	7
フィリピン	58.5	26	(±0)	49.7	8	4.5	8	2.1	5	▲14.8	1
スウェーデン	55.0	28	(±0)	571.1	2	7.1	5	2.1	5	▲4.6	9
米国	54.0	29	(↓8)	826.9	1	6.9	5	1.7	7	▲5.4	8
アイルランド	50.0	30	(↑10)	411.1	4	7.7	4	1.8	6	▲6.5	6
UAE	49.5	31	(↓7)	303.5	5	16.3	1	0.3	10	▲8.6	4
カナダ	44.0	32	(↓3)	215.3	6	6.9	5	2.6	3	▲7.1	5
ハンガリー	40.5	33	(↓4)	389.6	5	5.0	7	3.5	2	▲8.8	4
オーストリア	39.0	34	(↓11)	480.4	3	4.6	7	1.9	6	▲9.6	3
イスラエル	38.5	35	(↓3)	769.3	1	14.2	2	0.7	9	▲7.0	6
インドネシア	35.0	36	(↓9)	43.9	8	15.5	2	2.7	3	▲6.8	6
ブラジル	32.0	37	(↓2)	456.9	3	7.4	4	2.4	4	▲7.1	5
チリ	32.0	37	(↓5)	390.9	4	7.1	4	2.5	4	▲8.9	4
ベルギー	30.0	39	(↓7)	636.2	2	4.5	8	2.9	2	▲8.6	4
アルゼンチン	30.0	39	(↓3)	440.9	4	5.5	6	2.5	4	▲10.2	2
コロンビア	27.0	41	(↓1)	427.2	4	5.7	6	2.6	3	▲11.2	2
チェコ	22.5	42	(↓8)	986.9	1	10.4	2	1.7	7	▲9.2	4
イタリア	21.0	43	(↓1)	442.6	3	6.7	5	3.5	2	▲9.6	3
メキシコ	20.0	44	(↓3)	151.9	7	8.4	3	8.7	1	▲9.8	3
フランス	17.5	45	(↓3)	518.6	3	8.8	3	2.4	4	▲10.2	2
英国	14.0	46	(↓4)	592.5	2	7.3	4	2.9	3	▲11.9	2
ギリシャ	14.0	46	(↓16)	156.6	6	8.7	3	3.6	1	▲12.1	1
ペルー	12.0	48	(±0)	357.3	5	8.1	3	3.6	1	▲15.1	1
ポルトガル	10.5	49	(↓12)	755.2	1	15.8	1	1.9	6	▲9.9	2
スペイン	7.0	50	(↓4)	650.3	1	13.2	2	2.1	5	▲12.4	1

(注) 感染者数は累積感染者の対人口比(2/10時点、1万人あたりで表示)
 感染拡大率は2/10までの2週間の新規感染者の対累積感染者数比率(%表示)
 致死率は累積死亡者の対累積感染者数比率(2/10時点、%表示)
 GDP損失は、ベースラインの見通しからみた現時点での見通しの差分(対ベースラインGDP比率)
 順位の変化は2020/10/28時点からの変化

(資料) ジョンス・ホプキンス大学、Eurostat、Datastream、各国政府統計等よりニッセイ基礎研究所作成

GDPの落ち込み（ベースラインからの乖離）を推計してきた³。

しかし、感染拡大から1年以上が経過し、ウイルスの収束はなかなか見通せず、新型コロナウイルスとの戦いは長期化しそうである。ロックダウンを実施するとしても、それは一時的なショックへの対応というよりも、新型コロナとの長期戦における政策手段のひとつ、という位置づけになると見られる。ワクチン接種は長期戦における有力な政策手段となりそうだが、経済成長の観点からは、対面サービス産業における非接触への対応といった構造改革なども問われる段階にあると言えるだろう。

このランキングは短期的なショックを念頭に、コロナ禍に上手く対応できている国を見極めようとしてきたが、今後は、長期戦を前提として各種の政策手段を駆使しつつ対応できる国・適応できる国を見極める段階にきているのかもしれない。

(図表 2)

		各国の成長率見通し										GDP損失
	2019年実績	2020年ベースライン				2020年コロナ禍後						
		IMF		採用	世界銀行		OECD		IMF			
		19年10月	20年1月			21年1月	20年12月	21年1月				
先進国	オーストラリア	1.9	2.3	NA	2.3	NA	▲ 3.8	▲ 2.9	▲ 3.4	▲ 5.5		
	オーストリア	1.4	1.7	NA	1.7	NA	▲ 8.0	NA	▲ 8.0	▲ 9.6		
	ベルギー	1.7	1.3	NA	1.3	NA	▲ 7.5	NA	▲ 7.5	▲ 8.6		
	カナダ	1.7	1.8	1.8	1.8	NA	▲ 5.4	▲ 5.5	▲ 5.4	▲ 7.1		
	デンマーク	2.8	1.9	NA	1.9	NA	▲ 3.9	NA	▲ 3.9	▲ 5.7		
	フィンランド	1.1	1.5	NA	1.5	NA	▲ 4.0	NA	▲ 4.0	▲ 5.4		
	フランス	1.5	1.3	1.3	1.3	NA	▲ 9.1	▲ 9.0	▲ 9.1	▲ 10.2		
	ドイツ	0.6	1.2	1.1	1.1	NA	▲ 5.5	▲ 5.4	▲ 5.0	▲ 6.0		
	香港	▲ 1.2	1.5	NA	1.5	NA	NA	NA	▲ 6.1	▲ 7.5		
	アイルランド	5.6	3.5	NA	3.5	NA	▲ 3.2	NA	▲ 3.2	▲ 6.5		
	イスラエル	3.4	3.1	NA	3.1	NA	▲ 4.2	NA	▲ 4.2	▲ 7.0		
	イタリア	0.3	0.5	0.5	0.5	NA	▲ 9.1	▲ 9.2	▲ 9.1	▲ 9.6		
	日本	0.3	0.5	NA	0.5	▲ 5.3	▲ 5.3	▲ 5.1	▲ 5.2	▲ 5.7		
	オランダ	1.7	1.6	NA	1.6	NA	▲ 4.6	▲ 4.1	▲ 4.3	▲ 5.9		
	ニュージーランド	2.2	2.7	NA	2.7	NA	▲ 4.8	NA	▲ 4.8	▲ 7.3		
	ノルウェー	0.9	2.4	NA	2.4	NA	▲ 1.2	NA	▲ 1.2	▲ 3.5		
	ポルトガル	2.2	1.6	NA	1.6	NA	▲ 8.4	NA	▲ 8.4	▲ 9.9		
	シンガポール	0.7	1.0	NA	1.0	NA	NA	NA	▲ 5.8	▲ 6.7		
	スペイン	2.0	1.8	1.6	1.6	NA	▲ 11.6	▲ 11.1	▲ 11.0	▲ 12.4		
	スウェーデン	1.3	1.5	NA	1.5	NA	▲ 3.2	NA	▲ 3.2	▲ 4.6		
スイス	1.1	1.3	NA	1.3	NA	▲ 4.7	NA	▲ 4.7	▲ 5.9			
英国	1.4	1.4	1.4	1.4	NA	▲ 11.2	▲ 10.0	▲ 10.8	▲ 11.9			
米国	2.2	2.1	2.0	2.0	▲ 3.6	▲ 3.7	▲ 3.4	▲ 3.5	▲ 5.4			
新興国	アルゼンチン	▲ 2.1	▲ 1.3	NA	▲ 1.3	▲ 10.6	▲ 12.9	▲ 10.4	▲ 11.3	▲ 10.2		
	ブラジル	1.1	2.0	2.2	2.2	▲ 4.5	▲ 6.0	▲ 4.5	▲ 5.0	▲ 7.1		
	チリ	1.1	3.0	NA	3.0	▲ 6.3	▲ 6.0	NA	▲ 6.2	▲ 8.9		
	中国	6.0	5.8	6.0	6.0	2.0	1.8	2.3	2.3	▲ 3.4		
	コロンビア	3.3	3.6	NA	3.6	▲ 7.5	▲ 8.3	NA	▲ 7.9	▲ 11.2		
	チェコ	2.3	2.6	NA	2.6	NA	▲ 6.8	NA	▲ 6.8	▲ 9.2		
	エジプト	5.6	5.9	NA	5.9	3.6	NA	3.6	3.6	▲ 3.7		
	ギリシャ	1.9	2.2	NA	2.2	NA	▲ 10.1	NA	▲ 10.1	▲ 12.1		
	ハンガリー	4.6	3.3	NA	3.3	▲ 5.9	▲ 5.7	NA	▲ 5.8	▲ 8.8		
	インド	4.2	7.0	5.8	5.8	▲ 9.6	▲ 9.9	▲ 8.0	▲ 9.2	▲ 13.2		
	インドネシア	5.0	5.1	NA	5.1	▲ 2.2	▲ 2.4	▲ 1.9	▲ 2.1	▲ 6.8		
	韓国	2.0	2.2	NA	2.2	NA	▲ 1.1	▲ 1.1	▲ 1.0	▲ 3.1		
	マレーシア	4.3	4.4	NA	4.4	▲ 5.8	NA	▲ 5.8	▲ 5.6	▲ 9.6		
	メキシコ	▲ 0.3	1.3	1.0	1.0	▲ 9.0	▲ 9.2	▲ 8.5	▲ 8.9	▲ 9.8		
	パキスタン	1.9	2.4	NA	2.4	▲ 1.5	NA	▲ 0.4	▲ 1.0	▲ 4.2		
	ペルー	2.2	3.6	NA	3.6	▲ 12.0	NA	NA	▲ 12.0	▲ 15.1		
	フィリピン	6.0	6.2	NA	6.2	▲ 8.1	NA	▲ 9.6	▲ 9.5	▲ 14.8		
	ポーランド	4.5	3.1	NA	3.1	▲ 3.4	▲ 3.5	▲ 3.4	▲ 3.4	▲ 6.3		
	カタール	0.8	2.8	NA	2.8	▲ 2.0	NA	NA	▲ 2.0	▲ 4.6		
	ロシア	1.3	1.9	1.9	1.9	▲ 4.0	▲ 4.3	▲ 3.6	▲ 3.1	▲ 4.9		
サウジアラビア	0.3	2.2	1.9	1.9	▲ 5.4	NA	▲ 3.9	▲ 4.7	▲ 6.4			
南アフリカ	0.2	1.1	0.8	0.8	▲ 7.8	NA	NA	▲ 7.8	▲ 8.5			
UAE	1.7	2.5	NA	2.5	▲ 6.3	NA	NA	▲ 6.3	▲ 8.6			
台湾	3.0	1.9	NA	1.9	NA	NA	NA	3.0	1.0			
タイ	2.4	3.0	NA	3.0	▲ 6.5	NA	▲ 6.6	▲ 6.6	▲ 9.3			
トルコ	0.9	3.0	NA	3.0	0.5	▲ 1.3	1.2	0.1	▲ 2.8			
参考	ベトナム	7.0	6.5	NA	6.5	2.8	NA	NA	2.9	▲ 3.4		

(注) エジプト、インド、パキスタンは財政年度で2020年度および2021年度を考慮して作成
一部の国は各国政府統計の実績(推定)値を採用
(資料) IMF、OECD、Eurostat、Datastream、各国政府統計よりニッセイ基礎研究所作成

³ 経済被害は2021年以降も生じ得るが、各国間で比較した際の被害の大きさは2020年の被害規模と類似すると考えていた。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。